



# 31年3月期 第2四半期決算説明会

---

平成30年11月9日

株式会社セリア

JASDAQ

証券コード 2782

本日ご説明申し上げる今後の見通し等は、現在入手可能な情報から弊社の経営陣が判断したものでありますが、様々な要素により将来の事業を取り巻く環境が変動することも考えられます。

従いまして、将来の業績等につきましては本日ご説明申し上げます内容と大きく異なる可能性がございますことをご了承ください。

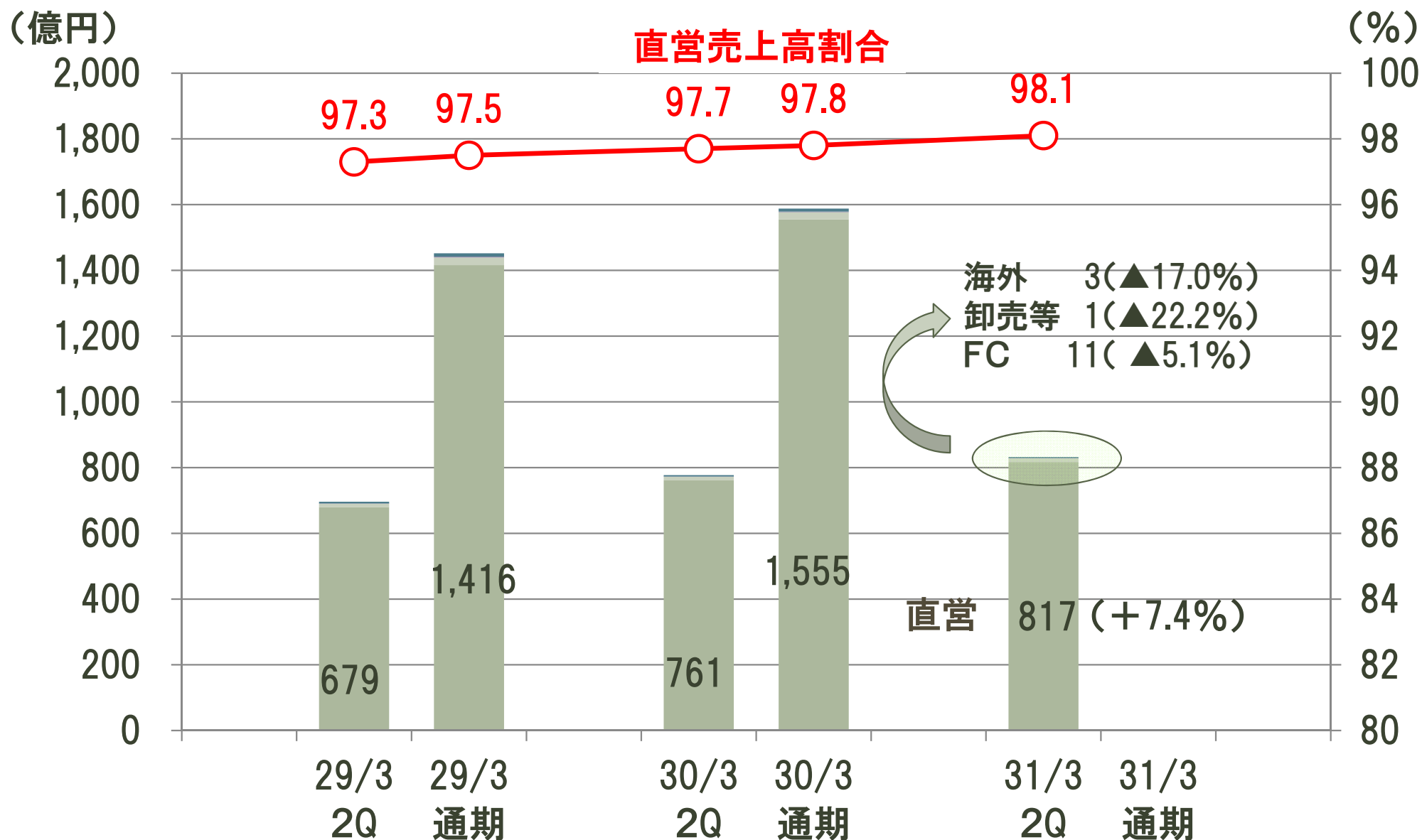
- 売上高は過去最高を更新。営業利益、経常利益、当期純利益は前年同期を下回る。
- 売上高営業利益率は9.5%と前年同期(10.3%)を下回る。
- 売上総利益率は前年同期から0.2ポイント上昇。  
(直営店の売上構成比増加等が寄与)
- 既存店売上高は前年同期比99.3%とほぼ計画(99.5%)どおりに進捗。
- 人件費率の上昇等により、売上高販管費比率は前年同期から1.0ポイント上昇。
- 直営店新店は、上期計画72に対し71店舗で進捗。

(単位:百万円)

	29年3月期 第2四半期	30年3月期 第2四半期	31年3月期 第2四半期
売上高	69,887 (+11.2%)	77,919 (+11.5%)	83,358 (+7.0%)
営業利益	6,819 (+31.7%)	8,062 (+18.2%)	7,900 (▲2.0%)
経常利益	6,854 (+31.8%)	8,058 (+17.6%)	7,909 (▲1.8%)
当期純利益	4,601 (+37.9%)	5,394 (+17.2%)	5,327 (▲1.2%)

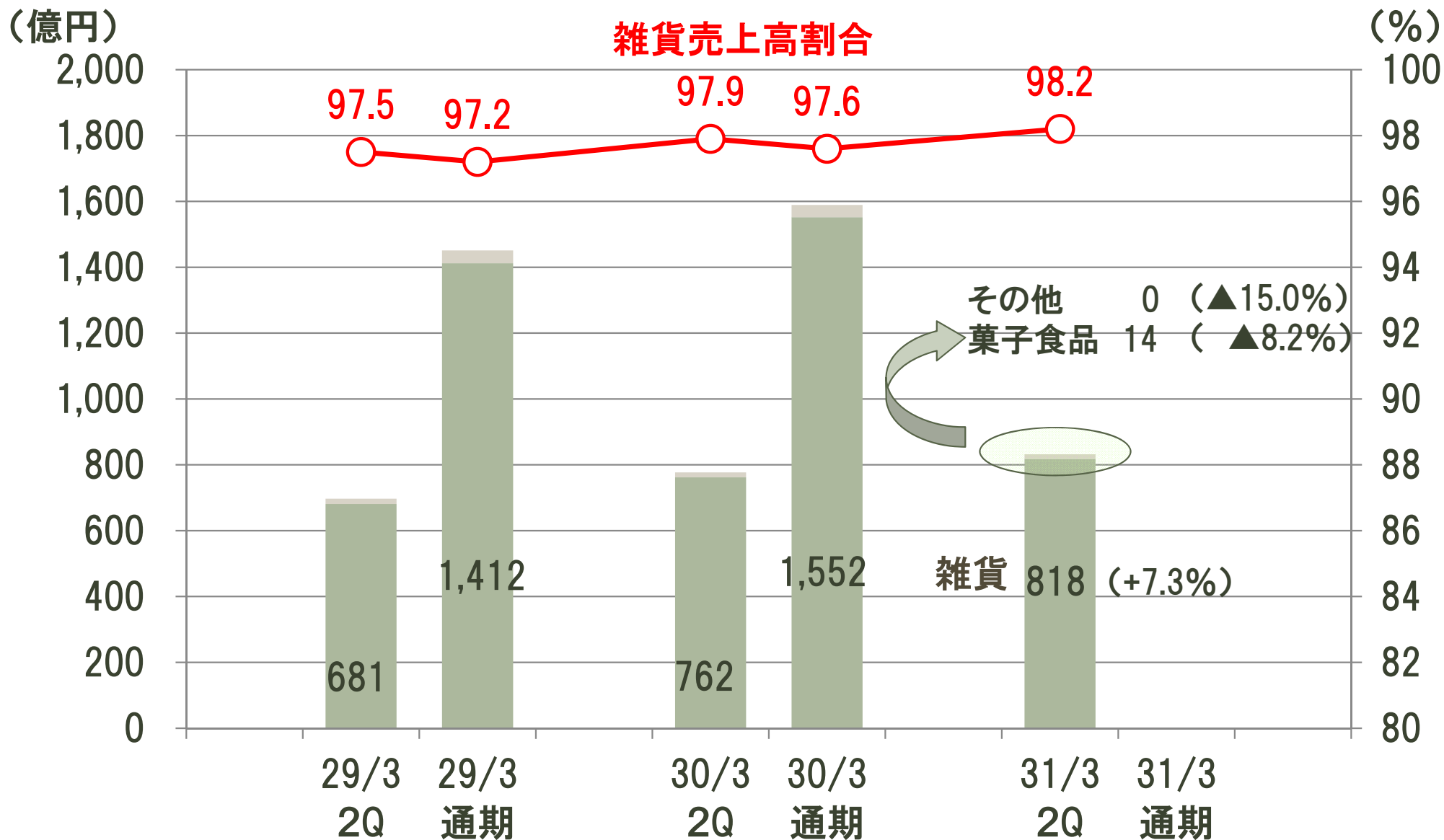
%表示は、対前年同四半期増減率

# 事業部門別売上高



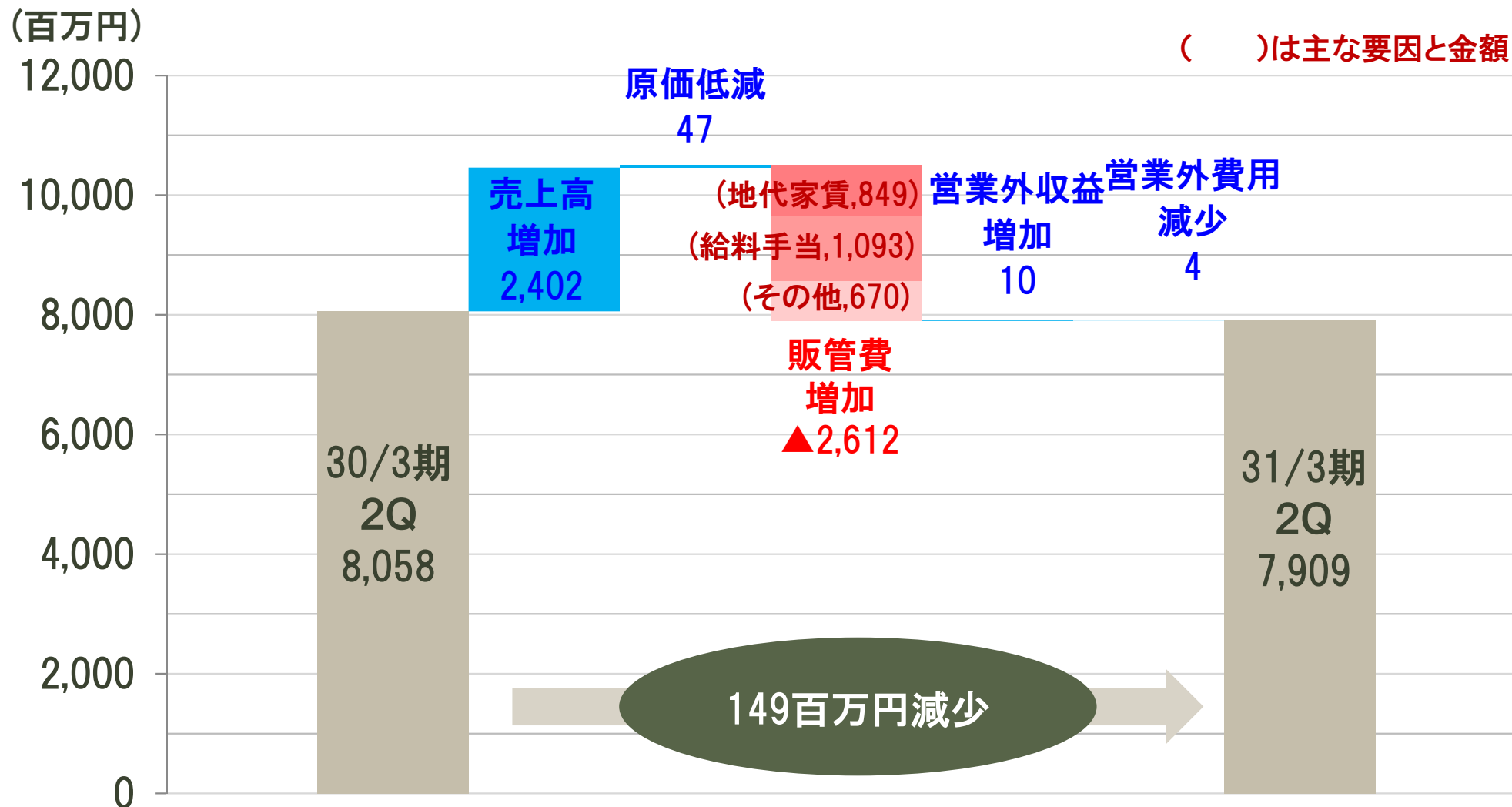
直営売上高割合は継続して増加(前年同期比+0.4ポイント)。

# 商品区分別売上高



雑貨売上高割合は継続して増加(前年同期比+0.3ポイント)。

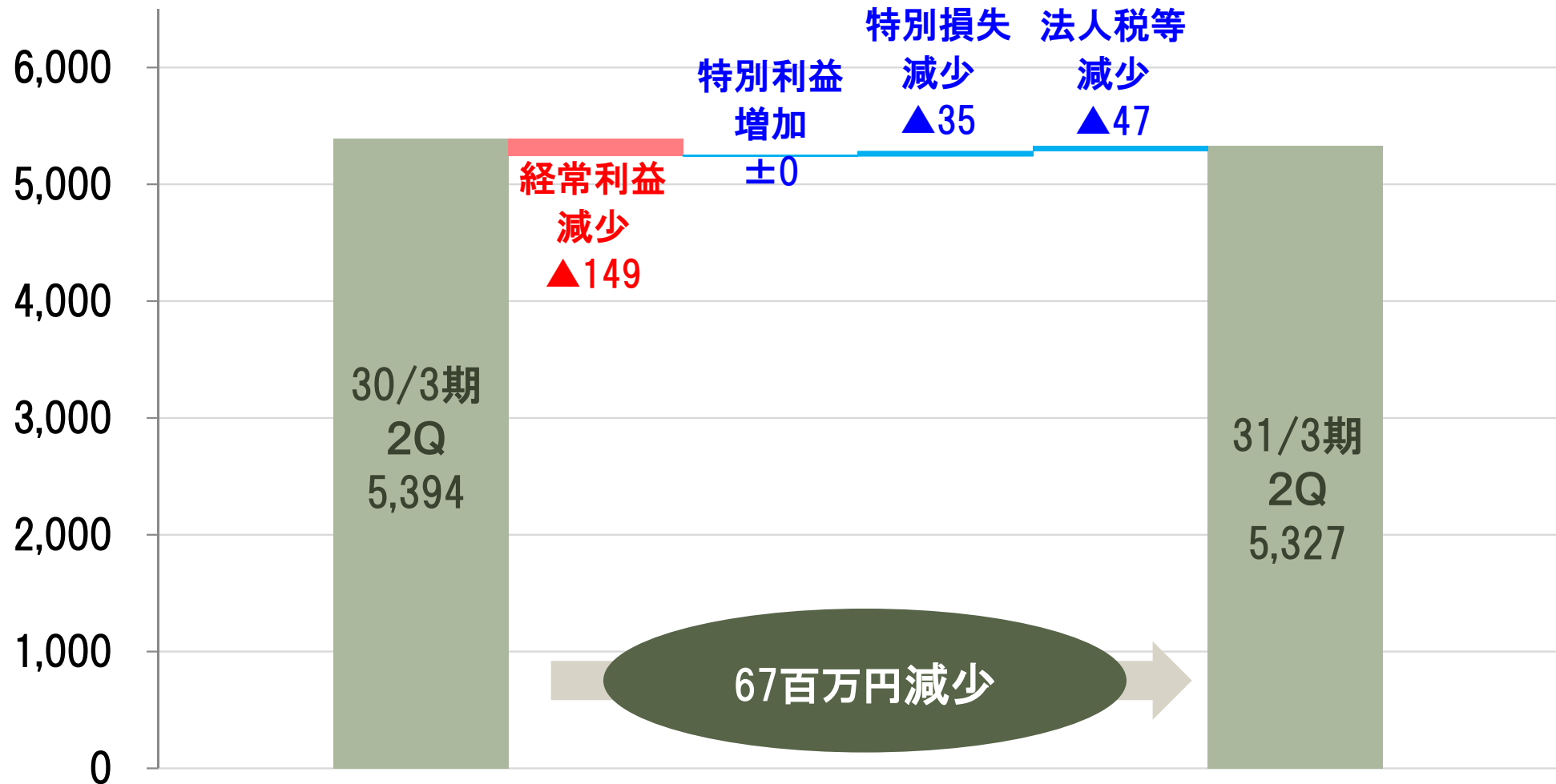
# 経常利益増減要因



パート従業員の時給上昇等により人件費が増加。

# 純利益増減要因

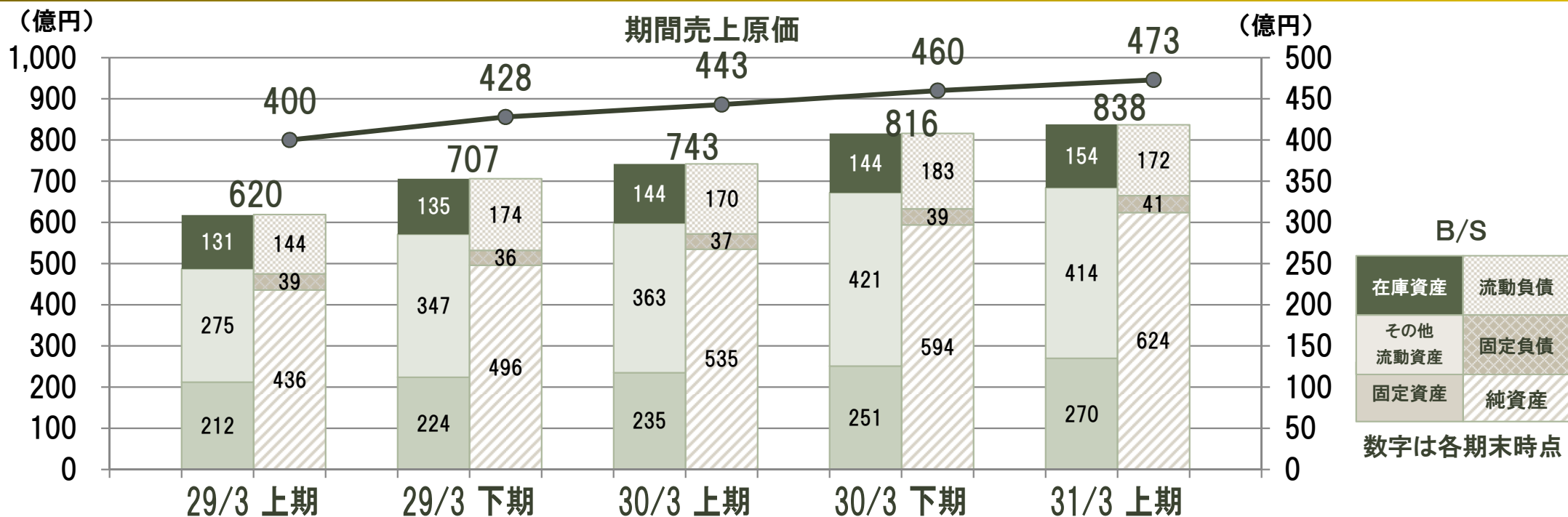
(百万円)



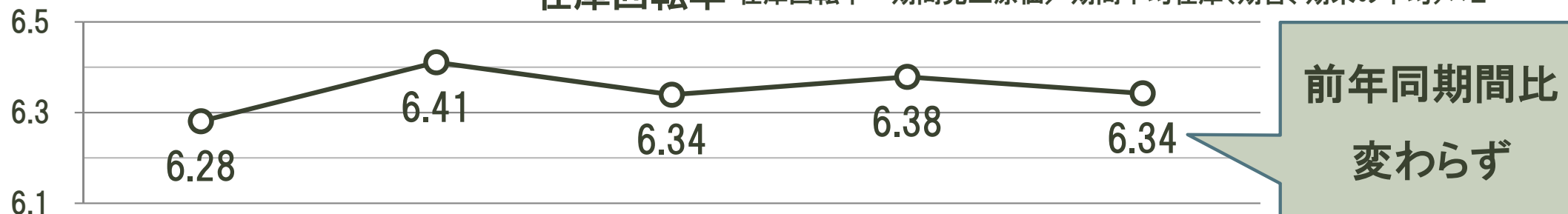
経常利益の減少以外は、特段の純利益要因なし。



# 在庫回転の状況



**在庫回転率** 在庫回転率 = 期間売上原価 / 期間平均在庫(期首、期末の平均) × 2



在庫効率は横ばいで推移。

# キャッシュフローの状況

(単位:百万円)

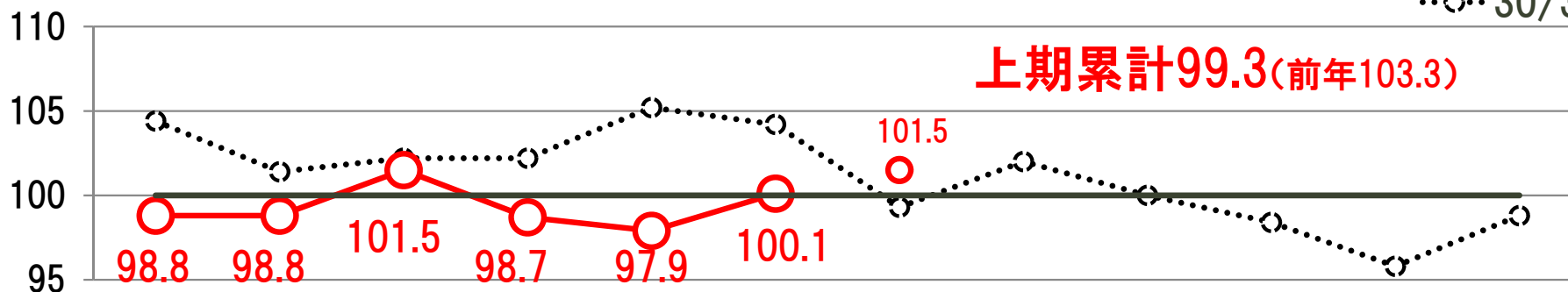
主要項目	前第2四半期累計期間	当第2四半期累計期間
営業キャッシュ・フロー	5,572	5,217
税引前四半期純利益	7,968	7,853
減価償却費	1,258	1,478
たな卸資産の増減額(増加:△)	△884	△1,014
仕入債務の増減額(減少:△)	△489	△289
法人税等の支払額	△2,617	△2,696
投資キャッシュ・フロー	△2,027	△2,729
有形固定資産の取得による支出	△1,653	△2,230
差入保証金の差入による支出	△476	△560
財務キャッシュ・フロー	△1,947	△2,608
借入・社債等(返済:△)	△114	—
配当金の支払額	△1,516	△2,275
リース債務の返済による支出	△315	△332

投資CFは営業CF内の増加。創業来初となる中間配当を実施。

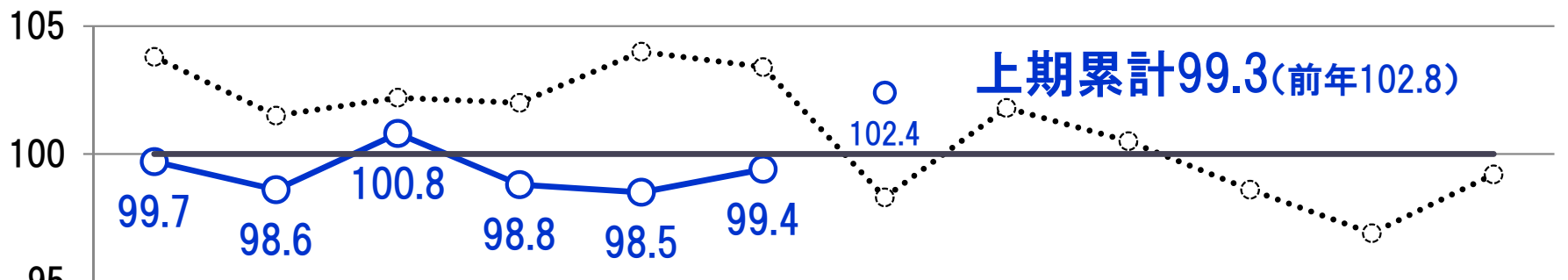
# 直営既存店前年同月比推移

30/3

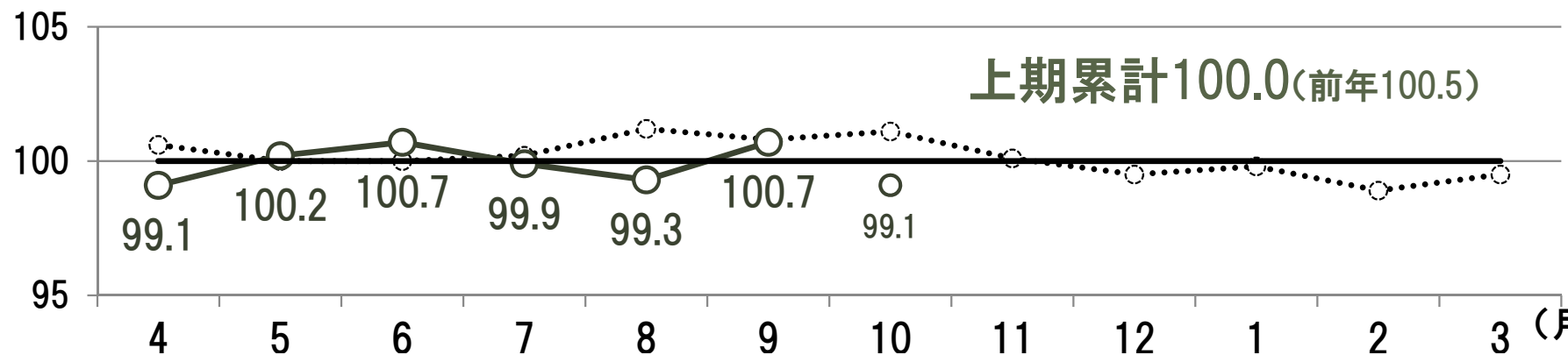
売上高



客数

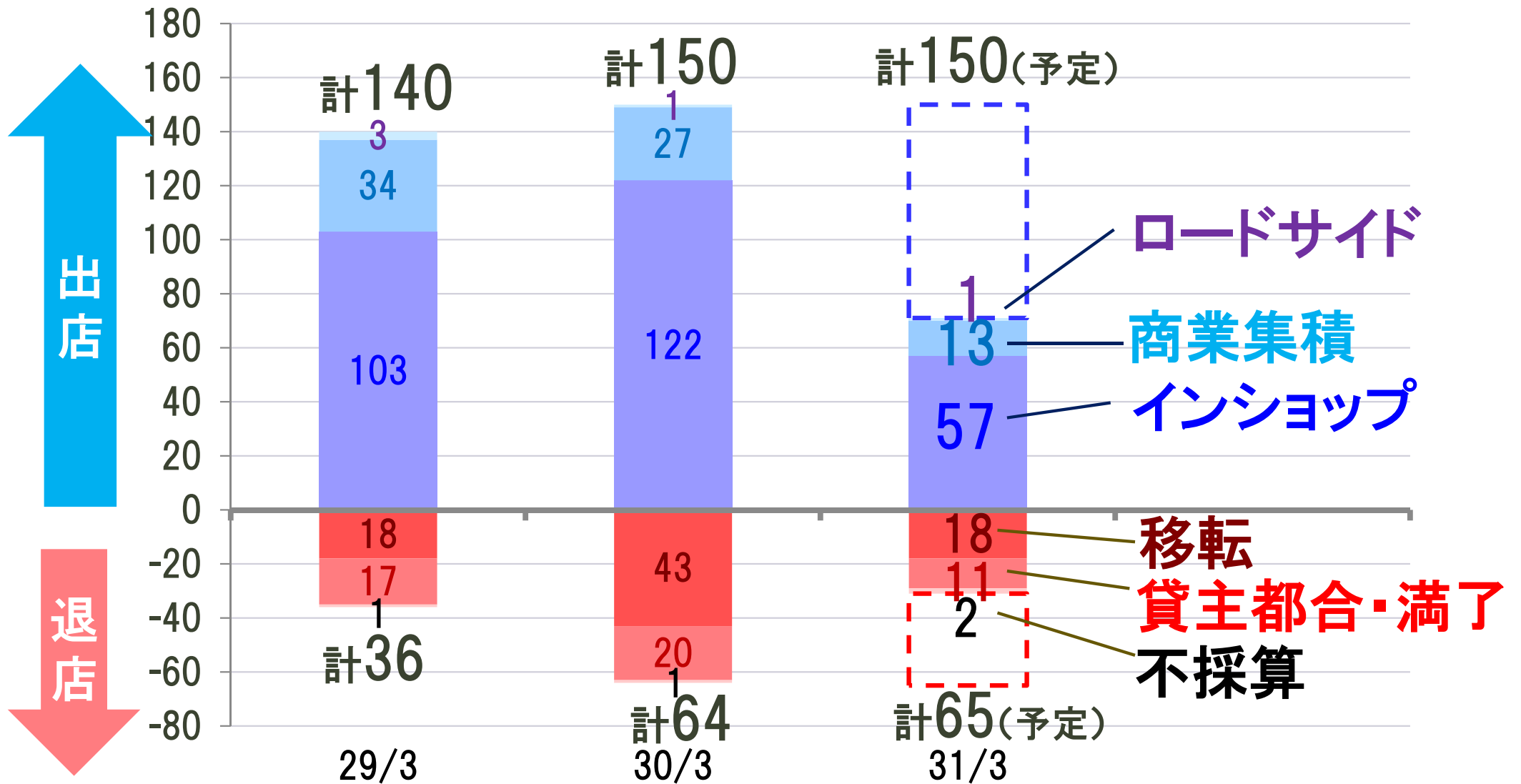


客単価



2Qに災害・天候影響あるも、ほぼ計画(99.5%)どおりの進捗。

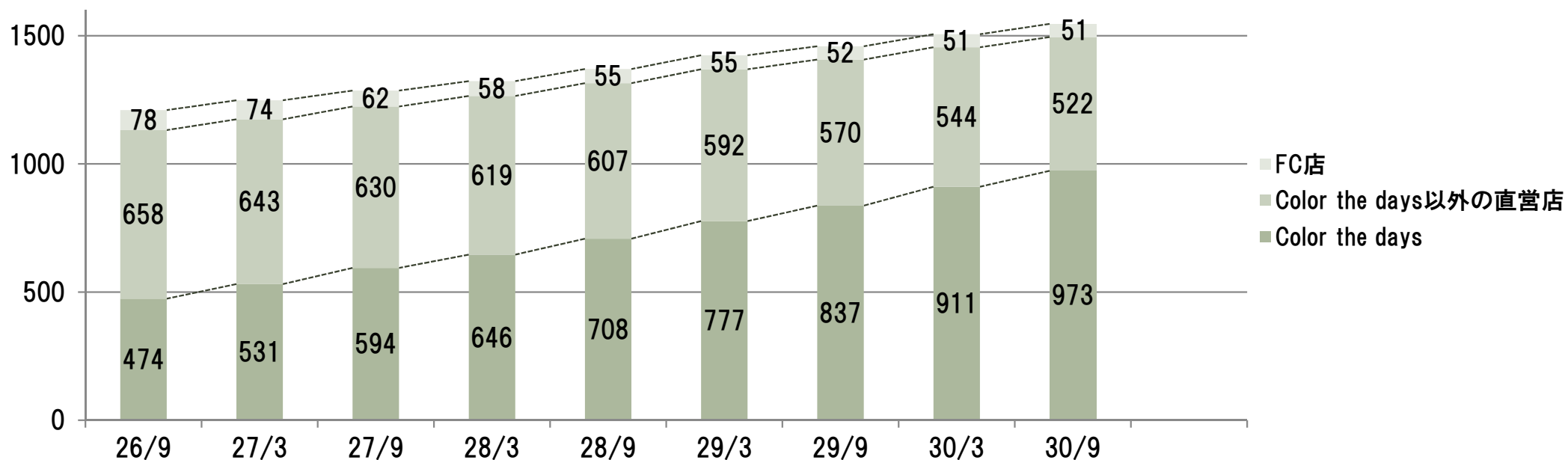
# 直営店出退店の状況



スクラップアンドビルドを推進。通期退店数を55→65に修正。

# 店舗数推移

		30年3月期			31年3月期		
		上期	下期	年間	上期(実)	下期(予)	年間(予)
直営店(FC店)	出店	65 (0)	85 (1)	150 (1)	71 (0)	79 (0)	150 (0)
	退店	27 (3)	37 (2)	64 (5)	31 (0)	34 (6)	65 (6)
	増加数	38(△3)	48(△1)	86(△4)	40 (0)	45(△6)	85(△6)



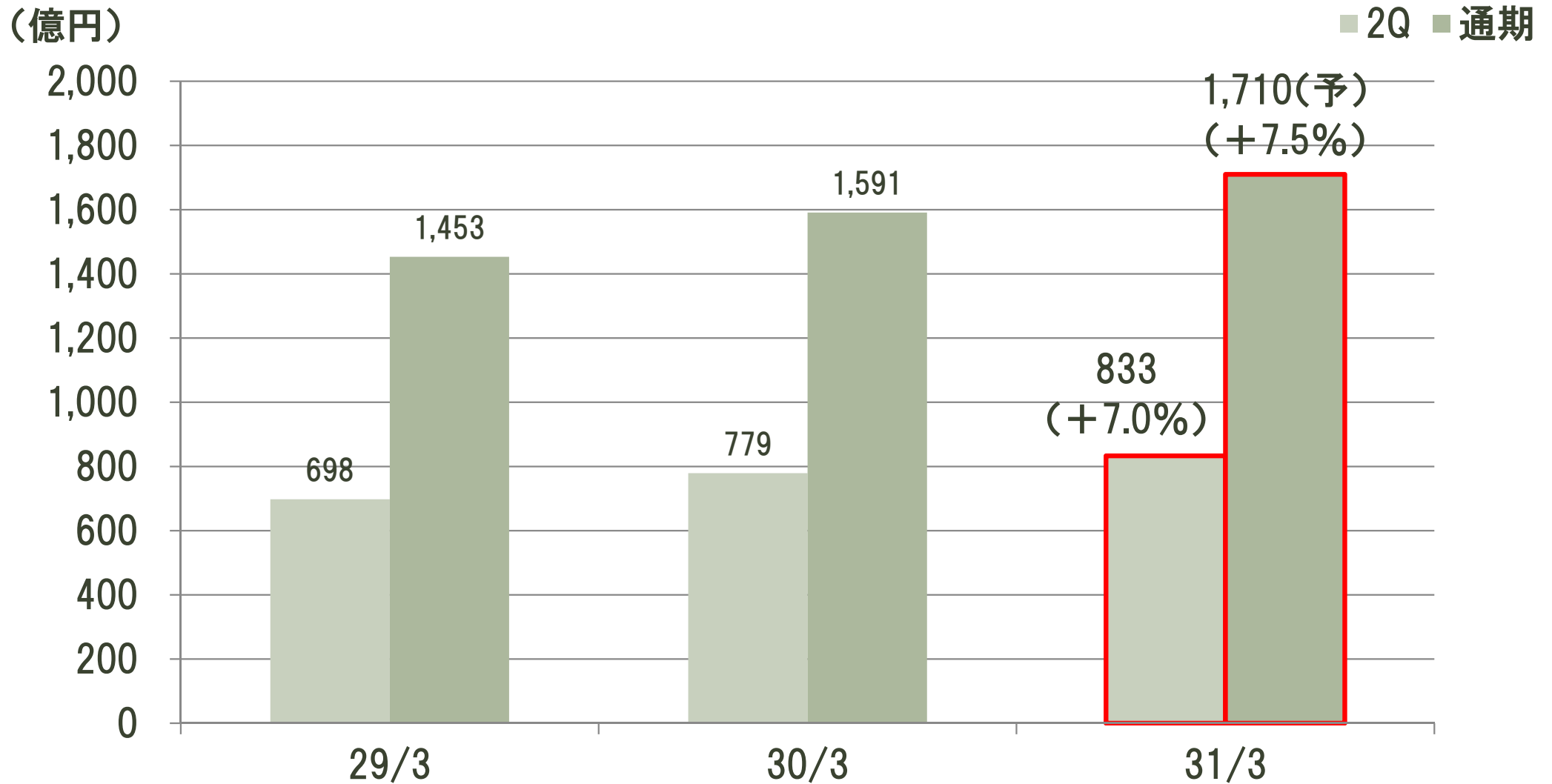
# 地域別店舗状況

直営・FC合計

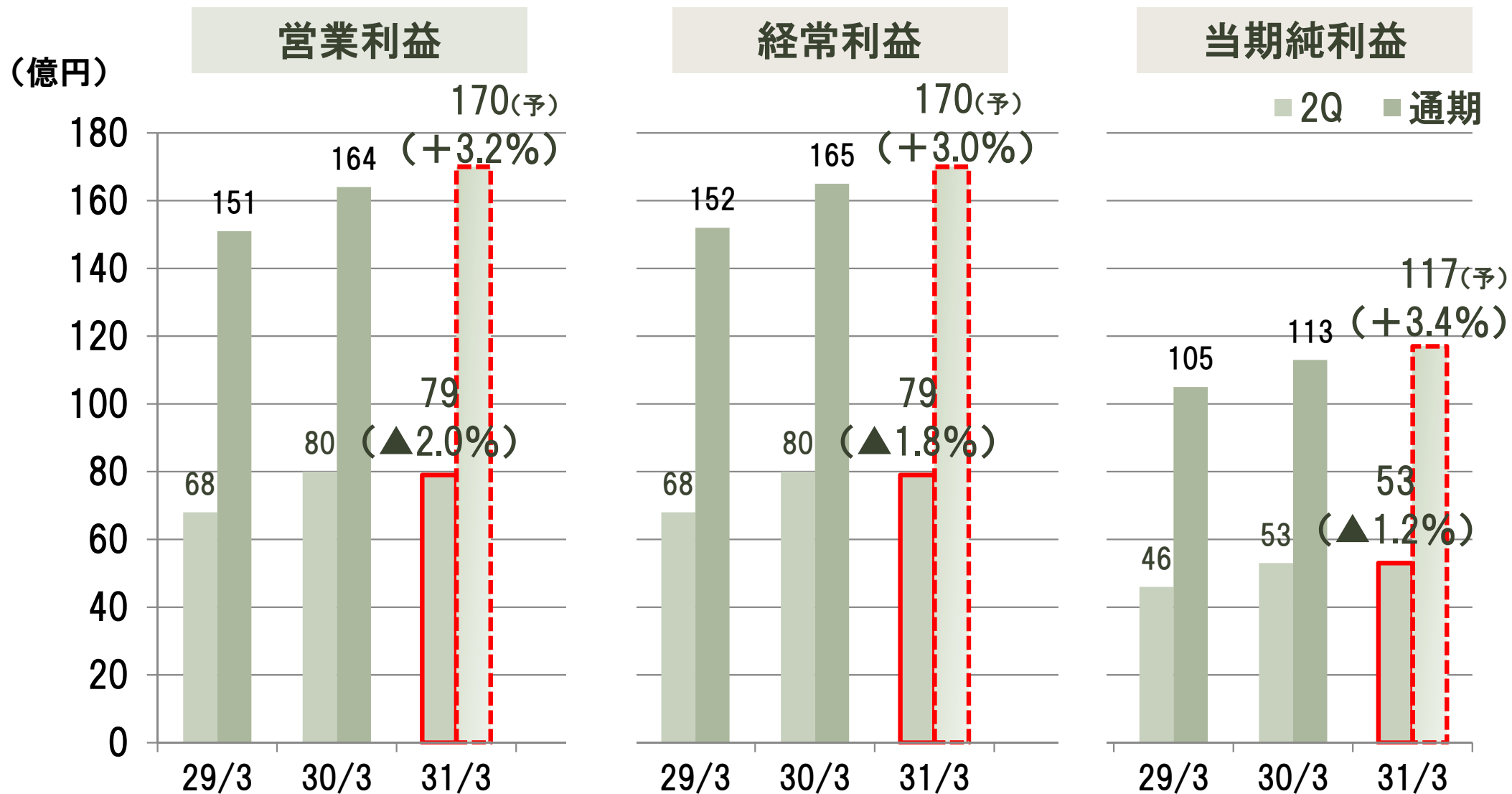
	30年3月期上期			30年3月期下期			31年3月期上期			
	出店	退店	期末	出店	退店	期末	出店	退店	期末	売上 前年同期比
北海道東北	7	2	182	9	0	191	7	1	197	107.7
関東甲信越	23	9	408	31	10	429	24	9	444	109.5
東海北陸	9	8	367	11	11	367	8	7	368	101.9
関西	11	1	227	12	2	237	11	2	246	107.5
中国四国	6	2	104	5	2	107	5	2	110	106.1
九州沖縄	9	8	171	18	14	175	16	10	181	<b>110.8</b>
合計	65	30	1,459	86	39	1,506	71	31	1,546	107.2

九州でスクラップアンドビルドを推進。売上10%増。

# 売上高の推移および予想



# 利益の推移および予想





# 31年3月期の業績予想

(単位:百万円)

	30年3月期実績			31年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	77,919	81,195	159,114	83,358	87,642	171,000
営業利益 (売上比)	8,062 (10.3%)	8,417 (10.4%)	16,479 (10.4%)	7,900 (9.5%)	9,100 (10.4%)	17,000 (9.9%)
経常利益 (売上比)	8,058 (10.9%)	8,442 (10.4%)	16,500 (10.4%)	7,909 (9.5%)	9,091 (10.4%)	17,000 (9.9%)
当期純利益 (売上比)	5,394 (6.9%)	5,922 (7.3%)	11,316 (7.1%)	5,327 (6.4%)	6,373 (7.3%)	11,700 (6.8%)

## 業績予想の前提

直営既存店前年比

下期 **101.3%(+1.0)**

直営出退店

出店 150 (±0)

退店 **65 (+10)**

FC出退店

出店 0 (±0)

退店 6 (±0)

足元動向から直営既存店前年比を100.3%→101.3%に修正。

---

# 当社の取組み

## ■ 商品政策

---

- ・顧客層拡大を狙いとした商品開発に注力
- ・データに基づく改廃基準による商品ポートフォリオ管理の強化

## ■ 店舗政策

---

- ・複数案件が見込める企業との関係強化
- ・持続的な出店拡大を見据えた店舗開発・運営基盤の強化

## ■ 業務効率化

---

- ・システムによる店舗作業効率化追求。セルフレジ試験導入
- ・物流システムに目処。物流経路変更、倉庫移設で効率化探る